ユネスコ本部における「アートマイル壁画展」報告

ユネスコで地球市民を育てる教育として高い評価

ジャパンアートマイル（JAM）

「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」（通称アートマイル）は、ユネスコが持続可能な開発のための教育（ESD）の学習プログラムとして奨励しているプロジェクトであり、2015 年度にユネスコ ASPnet のパイロット事業として日本とアジア太平洋地域６カ国の 25 校をつないだ”IIME: an experimental phase with UNESCO ASPnet Schools” が実施されました。2016 年 12 月にこのパイロット事業で制作された作品を中心に 10 点の壁画をユネスコ本部で展示しました。壁画展を通して、アートマイルが ESD として評価されただけではなく、ユネスコが進めているグローバル・シティズンシップ教育（GCED）としても評価され、今後のアートマイルのグローバル展開につながる成果が得られました。

１ ユネスコ本部展示の背景と経緯

（１）ユネスコ本部でアートマイル壁画展

2016 年 12 月 12 日～16 日にパリのユネスコ本部で日本政府代表部との共催事業として「アートマイル壁画展」を開催しました。

ARTMILE MURAL EXHIBITION at UNESCO
【期間】2016 年 12 月 12 日～16 日
【場所】ユネスコ本部（パリ）Corridor X-XI, B1
【主催】ジャパンアートマイル実行委員会
【共催】ユネスコ日本政府代表部

（２）背景と経緯

「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」（外務省・文部科学省後援事業）は、ユネスコが全世界で進めている持続可能な開発のための教育（ESD）に有効な学習プログラムであるとして、2014 年よりユネスコが奨励しているプロジェクトであり、ESD のグローバル・アクション・プログラム（GAP）としても登録しているプロジェクトです。

2015 年度にはユネスコ本部教育局 ASPnet (Associated Schools Project Network)のパイロット事業として、アジア太平洋地域 6 カ国のユネスコスクールと日本のユネスコスクールを繋いだアートマイル”IIME: an experimental phase with UNESCO ASPnet Schools” が小中高の 25 校で実施されました。

JAM はこの事業の成果をユネスコで発表すると共に、子どもたちがこれからの世界を持続可能で平和な世界にするために日本だけでなく他の国でもその国を中心としたアートマイルを実施して重層的に世界の子どもたちを繋ぐことを提案することを目的として、ユネスコ本部でのアートマイル壁画展を企画しました。

ユネスコに壁画展の提案をしたところ、当初は展示スペースが2年先まで予約で埋まっているとのことで難航しましたが、アートマイルを後援している外務省がプロジェクトの成果と展示の意義を評価して協力してくださり、日本政府代表部がユネスコ事務局と展示場所・日程を調整してくださった結果、2016 年 12 月に地下のイベントスペースで壁画展が実現することとなりました。

２ 作品展示

（１）作品の搬入・展示

作品の搬入・展示については、事前にユネスコ事務局とメール・電話で打ち合わせを行い、JAM から3名のスタッフが渡仏して、壁画展前日に作品を展示しました。当日は、フランスのアートマイル・コーディネーターが駆けつけてくれ、日本政府代表部の方が見守る中、ユネスコ事務局の展示スタッフがパネル設置と作品展示を行いました。

（２）展示作品 10 点

2015 年度に制作された 69 点の作品の中から ASPnet のパイロット事業の作品を中心に 10 点を展示しました。日本の学校と作品を共同制作した国は、インドネシア、タイ、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、フランスの6カ国です。

＜展示作品＞

東京都 多摩市立南鶴牧小学校
フランス：Groupe Scolaire Carlepont

福岡県 大牟田市立天領小学校
フランス：Collège Saint Paul-Rezé

兵庫県 神戸大学附属中等教育学校
フランス：LEGT Le Likès

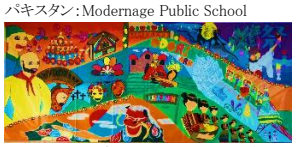
東京都 多摩市立東愛宕中学校
インドネシア：SMP Islamic Al Azhar 9

宮城県 富谷高等学校
インドネシア：SMA Negeri 10 Malang

東京都 昭和女子大学附属昭和中高等学校
インドネシア：SMP Islam Tugasku

兵庫県 Sherry 英語教室
パキスタン：Modernage Public School

愛知県 東浦町立緒川小学校
ニュージーランド：Ashburton Borough School



北海道 札幌市立札幌大通高等学校
フィリピン：Philippines Normal University Institute of Teaching and Learning

大阪府 府立泉北高等学校
タイ：Suksasongkro Chiang Mai School

３ 壁画展開幕：オープニング・カクテルパーティー

アートマイル壁画展の初日の 12 月 12 日に日本政府代表部の主催でオープニングセレモニーとカクテルパーティーが催されました。

オープニングには各国ユネスコ代表部大使、ユネスコ事務局幹部、ユネスコ教育局職員、ユネスコ邦人職員、日本関連機関の関係者など約 80 名が出席して、盛大に行われました。

日本の文部科学省からは鈴木寛大臣補佐官から祝電が届きました。

（１）オープニングセレモニー

オープニングセレモニーは、主催者の佐藤地ユネスコ日本政府代表部特命全権大使の挨拶とジャパンアートマイル代表のスピーチで始まり、続いてユネスコ教育局、作品を展示している国々の代表から祝辞を頂きました。

＜登壇者＞（スピーチ順）

・佐藤地　ユネスコ日本政府代表部特命全権大使
・塩飽隆子　ジャパンアートマイル代表
・Ms. Choi Soo Hyang　ユネスコ教育局教員・学習・教育内容担当部長
・Mr. Tubagus Ahmad Fauzi Soelaiman インドネシア代表部次席大使
・Mr. Pramote Duang-Im　タイ代表部次席
・Ms. Emma Nichols　NZ大使館二等書記官、ユネスコ代表部常駐代表代理

＜塩飽代表のスピーチ抜粋＞

「アートマイルは異なる国の子どもたちが ICT でつながって学び合う国際協働学習のプロジェクトです。協働学習を通して子どもたちは視野を広め、多様な価値観を理解・尊重し、友情をはぐくみ、さらに世界の人々と協働することに自信を持ちます。

今、世界はグローバル化が急速に進む一方で内向き志向が強まり、予測が困難な時代です。世界中で半年前には予想もしていなかったことが次々と起きています。この先が読めない時代を生きる子どもたちは、次々と押し寄せる新たな問題を世界の同世代と協働して解決していか

なければなりません。アートマイルはそうした時代を生きる子どもたちにとって、世界の人々と協働する原体験となるプロジェクトです。

対立ではなく対話を！孤立ではなく協働を！」

（２）カクテルパーティー

日本政府代表部が主催してくださったカクテルパーティーでは、寿司などの日本料理がふるまわれました。JAM からは事務局の地元赤穂の地酒「忠臣蔵」とフランス語名を持つ「QUATRE SEPT 47」を持参して、世界各国の皆さまに日本のお酒を召し上がっていただきました。

出席したユネスコ幹部や各国大使の方々はお酒を片手にJAMスタッフにプロジェクトや作品について説明を求めたり、作品と記念写真を撮ったりして作品を鑑賞されました。

JAM スタッフはこの機会に各国代表にアートマイルが ESD に有効なプロジェクトであることをアピールしました。

また、各国の代表の方々に自分の国を中心としたアートマイルの実施を提案しました。「世界が持続可能な社会になるため、世界がより調和して平和になるためには、日本が中心のアートマイルだけでは実現が難しい。より多くの国がホスト国となってその国の学校と他の国・地域の学校を繋ぐことで、これからの時代を担う子どもたちがもっと重層的につながり合って相互理解を広めることが必要。」と訴えました。

ユネスコ教育局のチョイ部長とライヒト課長は、アートマイルは ESD だけでなくグローバル・シティズンシップ教育（GCED）としても意義があるとして、2017 年 3 月にカナダのオタワでユネスコが開催する ESD と GCED に関する世界会議で発表してはどうかと強く勧められ、その日のうちに招待状と発表応募資料が送られてきました。

4 ボコバ事務局長・幹部・各国大使が来観

壁画展期間中にボコバユネスコ事務局長をはじめ、事務局幹部、各国ユネスコ大使の方々が大勢壁画を観に来られました。

ボコバユネスコ事務局長

執行委員会に出席していたボコバ事務局長が壁画展を観に来てくださいました。JAM 代表が挨拶すると、笑顔で「今回のアートマイル壁画展の開催を嬉しく思います。アートマイルは ESD として意味あるプロジェクトであることがよく分かります。グロ

ーバル・シティズンシップ教育としても意味がありますね。二国間で描いた作品はどこで分かれているか分からないくらい調和していて、どれもすばらしいですね。」とおっしゃって、壁画を一つ一つご覧になりました。

ウォーブス執行委員会議長

執行委員会議長のウォーブス氏も壁画展を観に来られました。ウォーブス氏は自身の出身国のドイツがまだアートマイルに参加していないことを知って大変残念がり、ドイツでもアートマイルを実施するよう代表部に話そうと言われました。来年度はドイツでもアートマイルが広がることを願っています。

5　展示以外の活動

（１）大使公邸に招待される

展示期間中に佐藤地ユネスコ日本政府代表部特命全権大使より大使公邸での会食に招かれました。大使と談話する機会をいただけたことは大変嬉しいことでした。

今回は日本政府代表部が共催していただけたことで日本の一 NGO がユネスコ本部で展示をすることができました。そればかりでなく、佐藤大使が機会ある毎に他国の大使やユネスコ幹部にプロジェクトの説明をしてくださったお陰で多くのユネスコ関係者の方がプロジェクトに関心を持ち、自国でアートマイルに取り組むよう関連機関に声をかけるとおっしゃってくださいました。JAM 事務局一同、佐藤大使への感謝の気持ちでいっぱいです。

（２）フランスの参加校を訪問

フランスのアートマイル参加校 Honore de Balzac を訪問しました。持続可能な開発のための教育（ESD）に熱心に取り組んでいるユネスコスクール（ASPnet school）です。

Honore 小学校には 50 もの国籍を持つ子どもたちが在籍しており、普段から多様性を尊重する教育が行われていますが、アートマイルに取り組むことで子どもたちが世界に興味関心を広げることができ、自分たちの文化に対する誇りも生まれると校長先生が喜んでおられました。

（３）パリ日本文化会館を訪問

パリ日本文化会館の杉浦館長をお訪ねしました。杉浦館長からは東京オリンピックに向けた日本文化の発信など多くの示唆に富んだ話をお伺いすることができました。

（４）フランスの参加校の教師が来訪

昨年から継続してアートマイルに参加しているGroupe Scolaire Carleponｔの校長先生が初日と最終日に来られました。異文化理解をテーマに取り組んだ昨年度の Carlepont 小学校と多摩市立南鶴牧小学校の作品は、今回の壁画展のポスターに採用しています。

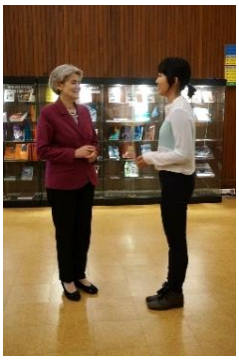
Collège Saint Paul-Rezé も昨年から引き続きアートマイルに参加しています。プロジェクト担当の先生と美術の先生の二人が来られました。昨年度の世界遺産をテーマに大牟田市立天領小学校と共同制作した作品を展示しています。

(5)アートマイルを経験した日本の大学生が来訪

中学3年生の時に「アートマイル環太平洋環境サミット」に参加してインドネシアで環境と災害について発表した日本の大学生が訪ねてくれました。

彼女は昨年まで２年間イギリスの高校に留学してバカロレア（国際的に通用する大学入学資格）をとり、今年からパリ政治学院で学ぶ大学１年生です。日本を外から客観的に見る目を持ち、世界にアンテナを張ってグローバルな視野で物事を考えている日本の若きグローバル・シティズンです。

「アートマイルが将来の方向性を決めるきっかけになった」という言葉に JAM スタッフは感動しました。



６ 成果

JAM は持続可能で平和な世界を目指して、日本の学校と世界の学校を繋ぎ、世界の仲間とグローバルなテーマで学び合って自分たちのオリジナルな作品を共同制作する国際協働学習「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」を 10 年間実施してきました。

その間に、世界はグローバル化が急速に進み、日本でもグローバル人材の育成が課題となっています。さらに、この一年は予想を超えて世界の変化は目まぐるしく、グローバル化が進む一方でポピュリズムが台頭し、内向き志向が一気に強まっています。

こうした予測が困難な時代に生きる子どもたちは、常に新しい問題に遭遇し、自分たちの力で前例の無い問題を解決していかなければなりません。そのときに必要な力は、多様な相手と知恵を出し合って協働する力です。一人一人が世界で起きていることを自分事として捉え、自分もこの地球に責任を持つ一人であり、この世界を多様な他者と協働してより良くする責任があるという地球市民意識です。

今回のユネスコ展示で多くの出会いがあり、今後の展開に繋がる動きがありました。

（１）ユネスコのカナダ会議での発表依頼

「他の国もホスト国となってその国を中心としたアートマイルを」という JAM の提案に対して、ユネスコ教育局のチョイ部長から、「2017 年 3 月にカナダのオタワで開催する"UNESCO Week for Peace and Sustainable Development: the Role of Education”でそのことを訴えてはどうか」と提案があり、その日のうちに会議への招待レターが送られてきました。

会議は「持続可能な開発のための教育」(ESD)と「グローバル・シティズンシップ教育」(GCED)に焦点を当てた会議で、ユネスコが招待する世界の教育のリーダーが集まる会議です。

アートマイルは ESD のグローバル・アクション・プログラム(GAP)にも登録していること、未来を創る子どもたちが学校教育の中で世界の同世代と繋がり協働的に学び合う学習は会議の目的に合致していることから、カナダ・オタワ会議はアートマイルをアピールするのに良い機会であると考えています。

（２）他国でアートマイルの広がりの動き

JAM は、壁画展開催中、「持続可能で平和な世界にするために、あなたの国もアートマイルのホスト国になりましょう。他の国の子どもたちと相互理解を深め、協働する体験を子どもたちにさせましょう」と訴えました。

フランスからは、「自分の国でもアートマイルができないか国内で相談してみる」との声が上がりました。

ドイツ、ロシアは、まずは自国の関係機関にアートマイルに取り組むよう呼びかけると言っていただけました。

（３）最後に

これまでの日本を中心とした JAM の取り組みから、世界中で JAM のようなホスト国が増えて子どもたちを繋いでいく動きが生まれるためには、カナダ･オタワ会議で JAM が訴えるだけではなく、ESDを世界に提案した日本としてこの動きをどう捉えるのか、文部科学省をはじめ関係各所のご指導をいただきながら進めていきたいと考えています。